会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（出口町自治会）
2　日時	平成 30 年 7 月 21 日（土）18：30～19：30
3　場所	小和田公民館
4　出席者	（資源循環課）森岡担当主査、下舞主任 （環境事業センター）門倉副主査、和田主事 （出口町自治会）参加人数：18 人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●茅ヶ崎市のごみの有料化については避けられず、やむを得ない状況だと感じている。しかし、市の予算の中で建設改良費が急に２１億円と計上されている。設備は老朽化するので設備費用は減価償却し、平準化した予算にするべきである。建設改良費に有料化の利益を充当することは良いと思う。 →ご意見として承る。 ●自治会の草取り等で出てきたごみはどのような方法で収集されるのか、戸別収集され、有料になるのか。 →藤沢市の場合、有料化の対象品目に剪定枝等は入っておらず、資源化を行っている状況である。また、地域清掃のごみは連絡をして無料で収集している状況である。茅ヶ崎市の場合、ごみの有料化と戸別収集を実施するか未定である。現段階で剪定枝等は資源化を検討している状況であり、実施されたとしても対象外になる予定である。なお、地域清掃のごみの収集方法は未定であるが、現在と同じ方法で収集されることが予想される。 ●藤沢市は資源物も戸別収集を行っているが、茅ヶ崎市もそうなる予定なのか。 →茅ヶ崎市は戸別収集を実施するか未定であるが、藤沢市は、戸別収集について段階的に導入している。最初は燃やせるごみと燃やせないごみから戸別収集は始まっており、そこから品目を拡大し、現在、ステーション方式に古紙類と衣類・布類のみが残っており、古紙類などの以外のものは戸別収集している状況である。本市で実施する場合、他自治体との差異がないように、燃やせるごみや燃やせないごみから戸別収集が始まると予想されるが、全ての品目を一斉に戸別収集を始めることは難しいと考えている。 ●ごみの有料化になると不法投棄が多くなると予想されるが、不法投棄対策はどうなるか。 →不法投棄対策として、現在はパトロールを実施している。環境事業センター職員による日々のパトロールや民間業者による土日夜間のパトロールを実施している。不法

	投棄に対して、抑止力のあるダミーカメラを設置する方法もあるが、景観の問題があるので、ごみの有料化になった場合はパトロールを強化する予定である。藤沢市の場合、ごみの有料化初期にパトロール専用の職員を配置し、コールセンターも開設し対策を行った。 ●ごみ拾いも有料になってしまうのか。不法投棄ではないが、ちょっとしたごみは拾って家庭ごみと一緒に出している。有料化になってしまうとごみ拾いをしにくい状況になってしまうのではないか。 →厚意でごみ拾いを行っている実態はあるかと思うが、有料化になるとごみ拾いをしにくい状況になってしまう。周知期間を設け、不法投棄やポイ捨て禁止の啓発活動に力を入れたいと考えている。また、鎌倉市の場合、道路清掃やカラスに荒らされたごみ清掃に対してはごみ袋を無料で配布している状況があるので、茅ヶ崎市も検討する予定である。 ●有料化に対して紙オムツは対象外にしてほしい。 →ごみの有料化は未定であるが、市の政策を背景として減免を検討していく予定である。他自治体では、生活保護世帯に有料袋を配布する等の減免事例が存在する。 以上